

第4学年 道徳学習指導案

1組 計30人 (男子15人, 女子15人)

指導者 野下 賢 剛

- 1 主 題 名 みんなで一緒に (2-(3) 友情・信頼, 助け合い)
資料名「同じ仲間だから」「私たちの道徳」

2 主題について

(1) 内容項目とその系統

【低学年2-(3)】 友達と仲よくし, 助け合う。
【中学年2-(3)】 友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合う。
【高学年2-(3)】 互いに信頼し, 学び合って友情を深め, 男女仲よく協力し助け合う。
【中学校2-(3)】 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち, 互いに励まし合い, 高め合う。
【中学校2-(4)】 男女は, 互いに異性についての正しい理解を深め, 相手の人格を尊重する。

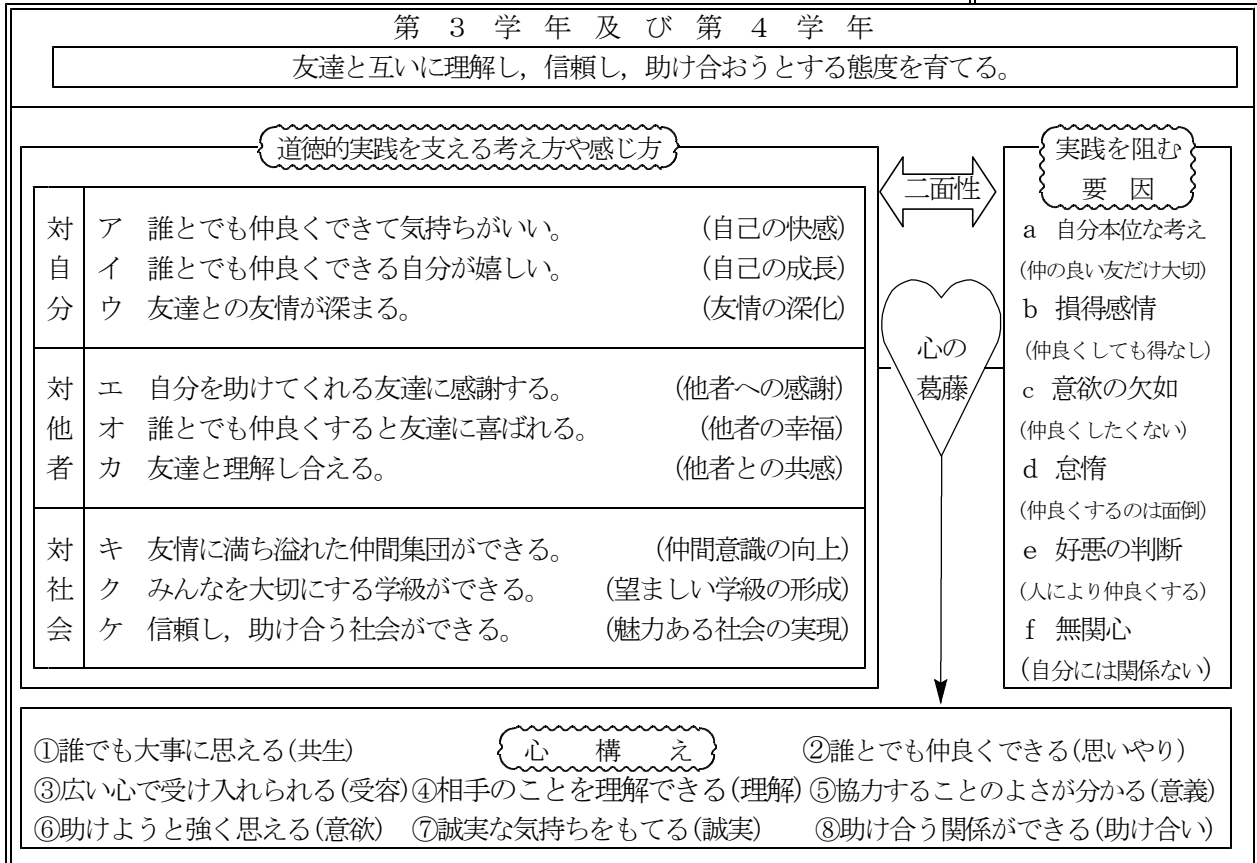
(2) 指導内容についての基本的な立場

友情は, 互いに相手の立場に立ち, 思いやり, 助け合い, 共に向上しようとする気持ちの中で育まれるものである。また, 信じて頼ることは, 人間関係を円滑にし, 社会に適応できる態度や習慣を身に付けるための基礎となる。ここでは, よりよい友情をつくっていきたいという願いを基に, お互いの思考や行動を理解し, 共に助け合い, 誰とでも仲よく過ごしていこうとするための大切な考え方を身に付けていくこととなる。

この期子どもたちは, 日常生活を送る中で様々な友達と関わりをもち, 友情を深めようとしている。しかし, 自分本位な考え方や好悪の判断などの心の弱さから, みんなで遊ぶ場面等で, 親しい友達とは積極的に仲良くするが, 誰とでも同じように接することに困難さを感じている様子をよく目にする。それらの弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには, 誰のことも広い心で受け入れていくなどの心構えが大切であることを気付かせる必要がある。

そこで, 本主題では, 相手の立場に立ち, 相手の気持ちを推しはかることで友情関係が深まり, 誰とでも仲良くできる関係が確立することを理解できるようにする。また, 友達の幸せを願う態度をお互いに養うことによって, 友情に満ち溢れた関係の輪が広がり, 明るく楽しい仲間集団を築き上げることに繋がると捉えることができるようにする。これらのことを踏まえ, 子どもが友達を大切にする事のよさを自覚し, 進んで誰とでも仲良くしようとする態度を育てる。

(3) 本主題の指導内容及び道徳的価値の構造



(4) 本主題に関連する体験活動等



3 子どもの実態

（調査人数30人 重複あり 平成26年9月17日）

(1) 本主題に関する経験場面①

どんな友達でも大事にできた経験	人数
・ みんなで遊んだとき（リレー等）	13
・ グループで遊んだとき	7
・ 学級のみんなで行動するとき	4
・ 休み時間におしゃべりをするとき	4
・ 友達が困っていたとき	3
・ グループ学習のとき	1

(2) 本主題に関する経験時の気持ち

どんな友達でも大事にできた時の気持ち	人数
・ うれしい、楽しい	18
・ ほっとする、よかった	6
・ 友達の良いところが分かった	4
・ 友達がいて良かった	3
・ これから仲良くできそう	2
・ ありがたうと言われ次もしたい	1

(3) 本主題に関する経験場面②

友達のことを誰でもは大事にできなかった経験	人数
・ 友達とけんかしたとき	10
・ 仲良くグループで遊んだとき	10
・ みんなで遊ぶとき	5
・ グループ学習のとき	2
・ 機嫌が悪かったとき	2
・ 友達がけがしたとき	1
・ 運動が苦手な友達と遊ぶか迷ったとき	1

(4) 本主題に関する経験の理由

友達のことを誰でもは大事にできなかった理由	人数
・ けんかしたから	11
・ 嫌なことをされたから	4
・ 大事にする気持ちが足りないから	4
・ 親しい友達と遊びたかったから	4
・ 仲が良くないから、慣れてないから	4
・ 恥ずかしい、不安、自信が無いから	4
・ 話が合わなかったから	2

(5) 道徳的価値の意義

友達のことを誰でも大事にすることはなぜ大切か。	人数
・ 友達と仲良くできる、楽しくなる	14
・ 一人ぼっちや仲間外れにならない	8
・ 嫌われない、遊び相手ができる	4
・ 相手が傷つくこともあるから	3
・ みんな笑顔になる	3
・ 自分が友達から信頼される	1
・ けんかしないため	1

(6) 道徳的価値に対する心構え

誰でも大事にするためにどんな考えをもつか。	人数
・ 優しくする、声を掛ける、支える	14
・ 誰とも仲良く、仲間外れしない	9
・ 悪口を言わない、嫌なことをしない	4
・ 相手の気持ちを考える	4
・ 褒めてあげる、うれしくさせる	2
・ みんなで仲良くする	2
・ 平等にする、差別をしない	2
・ みんな得意・不得意がある	1

(1)から、学級のすべての子どもが、どんな友達でも大事にできた経験があり、それらは学級のみんな、グループなどの場面と様々であることが分かる。(2)から、どんな友達でも大事にできた時の気持ちとしては、自分自身の心地よさを挙げているものが多いことが分かる。また、友達のよさに目を向けている子どもが4人いる。(3)から、誰でもは大事にできなかった経験も、学校での様々な場面であることが分かる。本時で扱う資料の中の運動が苦手な友達と遊ぶか迷う場面を想起している子どももいる。(4)から、誰でもは大事にできなかった理由が、相手への嫌悪感だけでなく、相手への気遣いの不足や接し方への不安があることが分かる。(5)から、誰でも大事にする意義では、自分の幸福に関わることが多いが、相手や学級みんなの幸せにつながる考えも挙げられていることが分かる。(6)から、誰でも大事にするための心構えでは、友達のことを思いやった考えが多く挙げられていることが分かる。その中で、「みんなで仲良くする」という集団での助け合いの考えがあり、大事に扱っていきたい。

この調査を踏まえ、本時では、事前アンケートを基に誰でもは大事にできなかった経験を想起し、本当は誰でも大事にしたいと思っている気持ちと対比できるようにする。その際、できなかった理由にあった相手への気遣いの不足や接し方への不安を取り上げ、やはり誰でも大事にしたいという思いをめあての設定に生かしていききたい。また、資料提示の前に、資料と同様の問題場面を想起している子どもの事例を取り上げ、より切実感のある資料への導入を図っていく。さらに、誰でも大事に思えることの意義や心構えを考える場面で、「自分づくりカード」を活用して自分、相手、集団社会という視点から見つめることができるようにし、自分の幸福だけでなく、相手や学級みんなの幸せをとらえ、誰でも大事に思えることのよさを多様に把握できるようにする。その中から子どもが「大切にしたい考え」を見付け出し、これからの生活に生かしていききたい「みんなで仲良くする」などの心構えを明確にできるようにしたい。このようなことを通して道徳的実践力を高めることにつなげていく。

4 資料について

(1) 資料のあらすじ

とも子の学級は、運動会の「台風の目」という競技の練習に夢中になっていた。しかし、とも子のグループには運動が特別苦手な光夫がいた。ある日、光夫が指をけがしているのを見て、同じグループのひろしが練習を休むことを勧める。光夫は大丈夫だと言うが、とも子はどちらがいいか判断に詰まる。その時、転校した友達の手紙から、その友達が仲間外れになっても頑張るといふ気持ちだったことを思い出す。そのことでとも子は、光夫も同じ仲間だから一緒に頑張るべきだと主張する。そして、体育の時間に力を合わせて練習するのだった。

(2) 資料の分析・子どもの反応予想

場面	分析（価値構造図より）	予想される子どもの反応
1 光夫が練習に参加するべきか、しないべきかで迷うとも子 【迷い・心の弱さ】	ウ 友情の深化（対自） オ 他者の幸福（対他） ク 望ましい学級の形成（対社） b 損得感情（仲良くしても得なし） e 好悪の判断（人により仲良くする）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 光夫も大切にしたい。 ・ 光夫を外すと寂しがらるはず。 ・ 学級みんなで一緒にしないと。 ・ 光夫を入れると負けるかも。 ・ 光夫は参加しない方がいい。
2 光夫も一緒に練習するべきだと決断するとも子 【意義】	ア 自己の快感（対自） オ 他者の幸福（対他） ク 望ましい学級の形成（対社） ① 共生 ② 思いやり ③ 受容 ⑤ 意義 ⑥ 意欲 ⑧ 助け合い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 光夫を大切にできて嬉しい。 ・ 光夫も一緒にできて喜ぶ。 ・ やっぱり学級みんなですべき。 ・ 誰でも大切に思わないと。 ・ 誰とでも仲良くしよう。

この資料は、運動の苦手な友達を仲間に入れるか入れないかで迷うとも子を主人公とした話である。運動の苦手な友達と仲良くできるかという状況は、日常よくあることであり、本学級の子どもたちにも馴染み易い資料であると言える。子どもたちは、自分であれば光夫を仲間に入れることができるかと自分に問い掛け、仲間に入れることを主張したとも子に憧憬の念を抱いて、とも子に共感することができるであろう。

今回、誰でもは大事に思えないことがあるという普段の経験を振り返りながら、誰でも大事に思えるためにはどのような気持ちが必要かを考えることができるように、この資料を活用する。

5 指導に当たって

- 「気付く」過程では、よりよく生きるためにはどんな考えを大切にすればいいかという「自分事の問い」をもつことができるように、自分の経験をしっかりと見つめさせることが大切となる。子どもたちは、友情に関する事前アンケートを基に、友達と仲良くできたりできなかったりした経験を見つめ、その時の意識と行動の矛盾から問題意識を高めて、「もっと誰とでも仲良くするための『大切にしたい考え』は何か」という本時を貫く「自分事の問い」をもつことになる。
- 「見つめる」過程では、扱う資料の主人公や一緒に学び合う友達との考えの差異から生まれる「自分事の問い」を大切にす。子どもたちは、「自分も主人公のように考えることができるのか」「自分と違う考えが他にもあるのか」というような「自分事の問い」を、「自分づくりカード」を活用した友達との「学び合い」の中で考えていくこととなる。この問いの追求が、本時を貫く「自分事の問い」の答えを見いだすことにつながる。
- 「深める」過程では、「自分づくりカード」に「大切にしたい考え」を表現するという活動を通して、本時を貫く「自分事の問い」に対する答えを明らかにすることとなる。「もっと誰とでも仲良くするためには、誰でも大事に思うという考えを大切にしよう」というような自分なりの答えをもつことになる。また、見付け出した「大切にしたい」考えを今後の生活のどんな時に思い出していきたいかという道徳的実践意欲を高めることとなる。「自分づくりカード」に思い出したい場面を具体的に表現する活動を行う。そのことは、「自分事の問い」を継続することとなり、新たな「自分事の問い」をもつことになる。
- 「高める」過程では、「自分事の問い」をもち続けて学習してきたことを、「自分づくりカード」で自分の考えの変容を確かめることで振り返り、そのことのよさを実感できるようにする。また、友達がいることの素晴らしさを感じるができる歌を視聴し、余韻の残る終末とする。

6 本 時

- (1) 目 標 友達のことを誰でも大事に思えることよさを広い視点から考え、誰でも大事に思い仲良くしていこうとする心情を育てる。
 (2) 展 開 ○ は教師の言葉掛け (---) は予想される子どもの反応 □ は「自分事の問い」 ◆ は重点評価項目 ☆ はICT活用の留意点

過程	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
(分) 気 付 く (5)	<p>1 友達誰でも大事に思うことが難しい経験について話し合う。</p> <p>誰でもは大事に思えないのはどんな時ですか。それはどんな理由からでしたか。</p> <p>仲の良い友達とだけ遊ぼうとしました。その方が楽しく遊べると思ったからです。 誰でも大事に思うためには、どんな考えを大切にしたらいいのだろう。</p> <p>もっと友だちだれでも大事に思うための「大切にしたい考え」は何だろう。</p>	<p>☆ 友達とふれあう場面の写真を電子黒板に提示することで、経験場面を想起できるようにする。</p> <p>○ 「誰でも大事に思うことは簡単なことかな」と発問し、実態調査を基に自分自身の経験を見つめさせた上で、誰とでも仲良くすることへの「自分事の問い」をもつことができるようにする。</p> <p>○ めあてに深める過程で見出す「大切にしたい考え」というキーワードを入れることで、学習に見通しがもてるようにする。</p> <p>○ 自分と主人公との差異という視点をもって資料を視聴させることで、話し合う場面の焦点化を図る。</p> <p>○ 心情を表出する「心のサークル」を活用することで、光夫を練習に参加させるべきかどうかで迷うとも子の気持ちに共感できるようにする。</p> <p>○ とも子に届いた手紙を実際の形で効果的に提示することで、誰でも大事にすることを見つめ直したとも子の気持ちに共感できるようにする。</p> <p>○ 「自分づくりカード」に表れた、子どもの考えを、三つの視点（対自分、対他者、対集団社会）で分類させることで、子どもが友達の考えとの差異をつかんだり、大切だと思う考えを焦点化したりにできるようにする。</p>
見 つ め る	<p>2 資料「同じ仲間だから」を視聴し、とも子の気持ちを中心に話し合う。</p> <p>(1) 光夫を練習に参加させるべきかどうかで迷うとも子の気持ちについて話し合う。</p> <p>とも子が返事に困ってしまったのは、どんなことを考えたからでしょう。</p> <p>参加させた方がいい ・光夫も大切にしたい。 ・休ませると光夫が寂しがらはず。 ・学級のみんなでやらないと意味がない。</p> <p>休ませた方がいい ・光夫を入れると負けてしまう。 ・光夫は自分から遠慮したらいいのに。 ・参加しない方がみんな喜ぶのでは。</p> <p>(2) 光夫も一緒に参加させた方がいいと思ひ定めたとも子の気持ちを話し合う。</p> <p>光夫も一緒に参加させた方がいいととも子が思ったのは、どんなことを考えたからですか。</p>	<p>○ 「自分づくりカード」に表れた、子どもの考えを、三つの視点（対自分、対他者、対集団社会）で分類させることで、子どもが友達の考えとの差異をつかんだり、大切だと思う考えを焦点化したりにできるようにする。</p> <p>○ 指導内容の重点化を図る場面で、「誰でも大事に思う」という本主題に関する考えについて話し合うことで、自分の過去・現在・未来の視点から考えを深められるようにする。</p>
(25)	<p>対自 ・光夫を大切にできると嬉しい。 対他 ・光夫も一緒にできて喜ぶはず。 対社 ・やっぱり学級みんなで取り組むべき。</p> <p>・友達は誰でも大事にしないと。 ・光夫を仲間に入れよう。 ・光夫をみんなが大事にしないと。</p>	<p>◆ 誰でも大事に思うことの意義についての考えを広げているか。【「自分づくりカード」】</p>
深 め る	<p>3 自分を見つめ、友達誰でも大事に思うことに関する「大切にしたい考え」を見付け出す。</p> <p>これからあなたが誰でも大事に思うための「大切にしたい考え」は、どんな考えですか。</p> <p>ぼくは、誰でも大事に思うことで、よい学級になるという考えを大切にしたいです。</p>	<p>☆ 関連する生活場面の写真を提示することで、自分の生活を考える場面だと分かるようにする。</p> <p>○ 「自分づくりカード」を用いて、本主題に関する「大切にしたい考え」を表現し、これからの生活と結び付けて考えることにより、その後の生活への実践意欲を高められるようにする。</p>
(10)	<p>4 見付け出した「大切にしたい考え」と今後の生活を結び付けて考える。</p> <p>見付け出した「大切にしたい考え」をどんな時に思い出したいですか。</p> <p>「大切にしたい考え」は、これからの生活のどんな時に生かせそうかなあ。</p>	<p>○ 『「大切にしたい考え」』は、授業で考えただけで終わりですか」という問い返し発問をすることで、新たな「自分事の問い」を見いだせるようにする。</p> <p>○ 「自分づくりカード」で自分の考えの変容を確かめることで、「自分事の問い」をもって学ぶことよさを実感できるようにする。</p>
高 め る (5)	<p>5 資料「わたしたちの道徳」を読み、今後誰とでも仲良くすることについて夢・希望をもつ。</p> <p>私は、昼休みにグループで遊ぶ時に「誰でも大事に思う」ということを思い出したいです。</p>	<p>○ 「わたしたちの道徳」を活用し、友情に関する歌を視聴することで、今後の生活に夢や希望を膨らませることができるようになる。</p>